

外国につながるのある当事者家族として

- 発達支援通訳者として受け止める声とともに -

田中 レオニセ

公益財団法人 三重県国際交流財団

発達支援通訳パートナー

【発行】

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部
発達障害情報・支援センター

お話の流れ

- ① 自己紹介/通訳の活動について
- ② 通訳から見た保護者の困難
- ③ 保護者への必要な支援
- ④ 保護者同士の「繋がり」サポート
- ⑤ 外国につながるのある当事者家族としての経験
- ⑥ 支援者・行政関係者に伝えたい事

① 自己紹介/通訳の活動について

自己紹介をお願いします

① 自己紹介/通訳の活動について

- ・ 聴覚障害・自閉スペクトラム症・知的発達症の子をもつ母
- ・ 現在、三重県国際交流財団の発達支援通訳パートナーとして活動
 - ➡主な通訳の場：病院、保健センターなど
- ・ 33年前に来日
- ・ 来日時、日本語は全く分からなかった



② 通訳から見た保護者の困難

日本で暮らす外国につながる子どもや家族が直面する
困難について、通訳の活動や経験から感じていることは？

② 通訳から見た保護者の困難

- ・ コミュニケーション文化の違いによる専門家や支援へのニーズのすれ違いリスク
- ・ 通訳の限界 / コミュニケーションのリミット
- ・ 限られた時間のなかで支援者に全てを正確に伝えることの困難さ
- ・ 言葉や文化、習慣の壁により募る保護者の不安



③ 保護者への必要な支援

日本で暮らす外国につながる子どもや家族が必要とする支援とは？
(通訳としての視点も含めながら)

③保護者への必要な支援

- ・ 相談しやすい・繋がりやすい専門家/支援者の存在
- ・ 保護者の文化や心理的背景を汲んだ通訳
- ・ 精神的な支援
- ・ 学校と支援機関(病院)との連携
- ・ 支援に繋がるための母国語での情報提供やシステムづくり



④ 保護者同士の「繋がり」サポート

話にあった「保護者同士が繋がる場所」について、
どのようなサポートが必要と感じますか？

④ 保護者同士の「繋がり」サポート

- ・ 保護者同士だからこそ分かち合える想いや経験
- ・ 情報共有やアドバイスのありがたさ
- ・ 外国に繋がる当事者家族のみでピアグループを作ることの難しさ
- ・ 専門性がある支援者によるファシリテーションの必要性

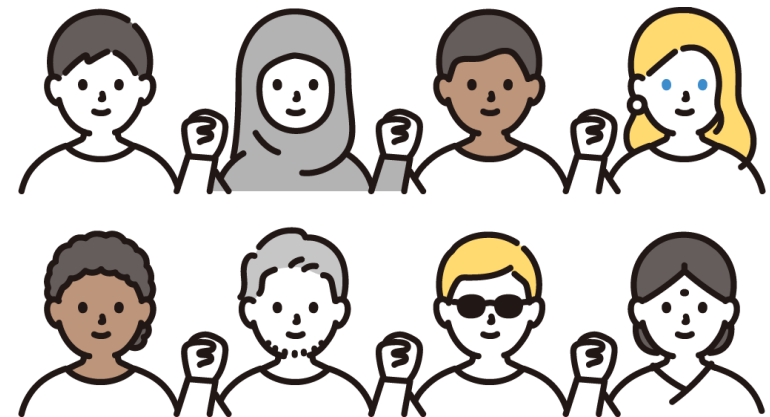


⑤外国につながりのある当事者家族としての経験

発達障害のある子どもを育てる保護者の立場から
実際の経験を通して感じたことは？

⑤外国につながるのある当事者家族としての経験

- ・言葉の壁など、母国ではない場所での支援や選択の難しさ
- ・大きな助けとなった学校・支援機関をはじめとした「支援者」の存在の重要性
- ・「迷惑をかけてはいけない」という日本の社会規範がもたらす周囲の視線と発達特性への対応の難しさ
- ・成長に伴う支援機関・頼れる先の減少
- ・ひとりで悩まずに周りの力を求めることの大切さ



⑥ 支援者・行政関係者に伝えたい事

外国につながりのある発達障害の子どもとその家族をサポートする
支援者・行政関係者に伝えたいことは？

⑥ 支援者・行政関係者に伝えたい事

- ・ 人種、文化、言語は違えど、「支援を必要としている」という共通の困難や不安な気持ちは同じ
- ・ 困難に対処するためには一緒に考え、手を差し伸べる支援者の伴走が不可欠
- ・ 同じ人間として、障害があっても受け入れられる社会に



ご清聴ありがとうございました

